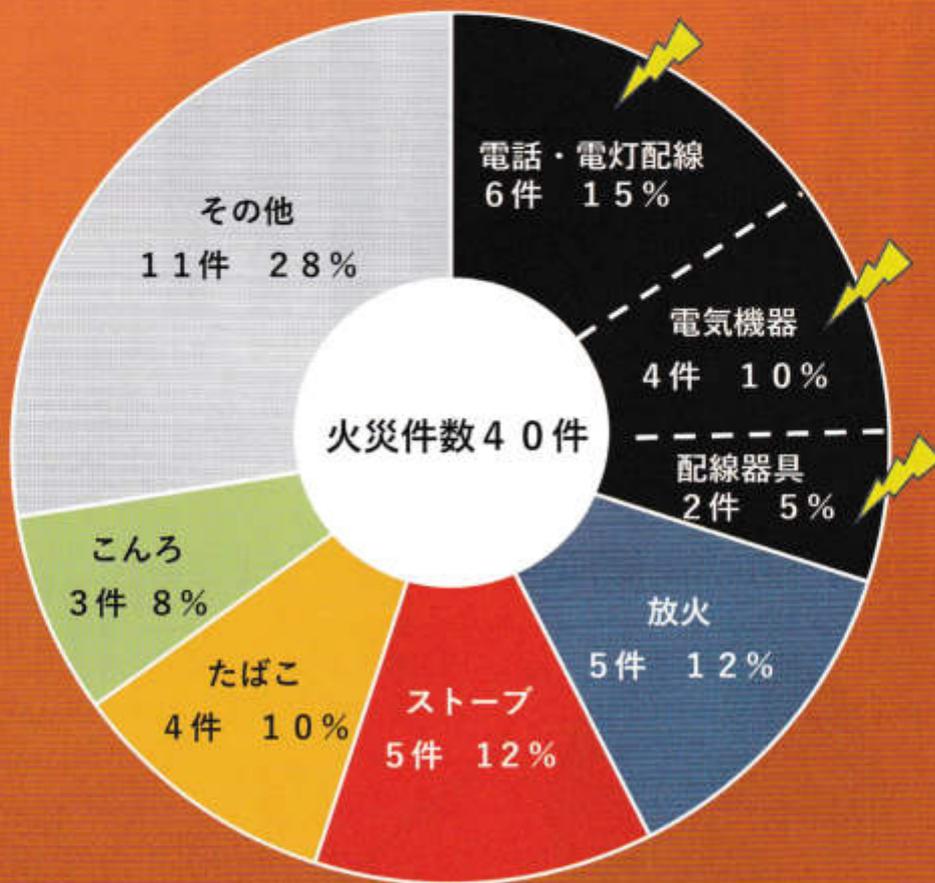


# 身近に潜む火災危険から

# 命を守ろう！

令和7年中の火災・救急件数等の概況について

多摩区内の火災原因のトップは、  
「電気火災」  
(12件 約30%)



区内・火災原因別件数（令和7年中）

多摩防火協会 多摩消防署

# 1 火災概要

## 令和7年中の火災・救急件数等の概況について（速報）

- ・令和7年中の火災、救急及び119番通報の件数を次のとおりまとめました。
- ・いずれの件数も過去10年間で最多の件数となりましたので、引き続き火の元には十分御注意いただくと共に、救急車の適時・適切な利用に御協力くださいますようお願いいたします。

### (1) 市内火災件数

- ・令和7年中の火災件数は470件で、令和6年中の398件から72件増加し、1日当たりの発生件数は約1.3件でした。また、過去10年間の平均火災件数は約365件となります。

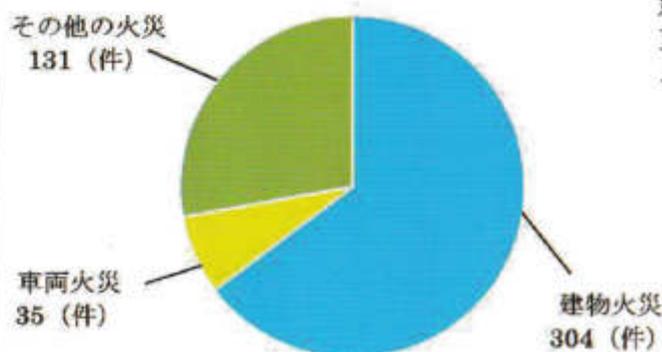


火災は増加傾向ですので、注意が必要です！



- ・火災件数を建物、車両及びその他の火災に分類すると、建物火災が304件と最も多く、全体の65%を占めています。

### 【令和7年中火災種別内訳】



火災種別ごとにみると、

「建物火災」が304件で65%を占める。

建物火災・・・304件

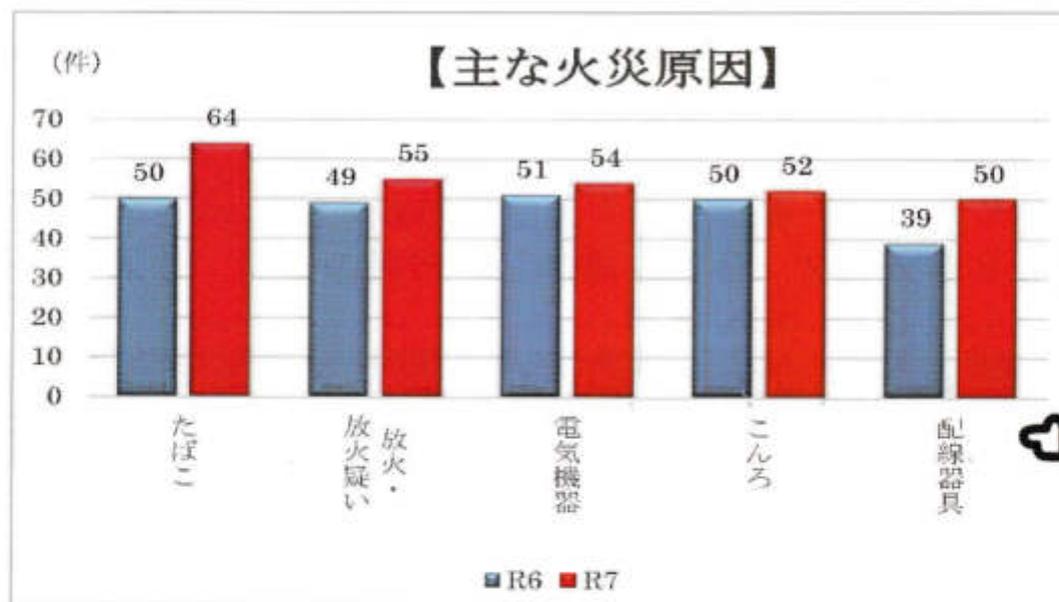
車両火災・・・35件

その他の火災・・・131件



## (2) 火災原因

火災原因は、「たばこ」が64件で1位、2位は「放火（疑いを含む）」で55件、3位は「電気機器」で54件、4位は「こんろ」の52件となっており、前年と比較すると「たばこ」は14件増加、「放火（疑いを含む）」は6件増加、「電気機器」は3件増加、「こんろ」は2件増加しています。



## (3) 火災による死者及び負傷者の状況

ア 火災による死者は12人で、前年と比較すると2人減少しており、死者の発生原因別では、逃げ遅れによるものが11人、その他が1人となっています。

年齢別では、65歳以上の高齢者が10人、65歳未満が2人となっています。

イ 火災による負傷者は60人で、前年と比較して12人減少しています。



## 2 救急概要

### (1) 救急出場件数

令和7年中の救急出場件数は、91,157件で過去最多の出場件数となりました。

令和6年に比べ2,043件(2.3%)増加し、1日平均出場件数は249.7件で約5分46秒に1件の割合で救急出場したことになります。

### (2) 搬送人員

ア 搬送人員は、74,147人で令和6年に比べて1,680人(2.3%)増加し、市民の21.0人に1人を搬送したことになります。

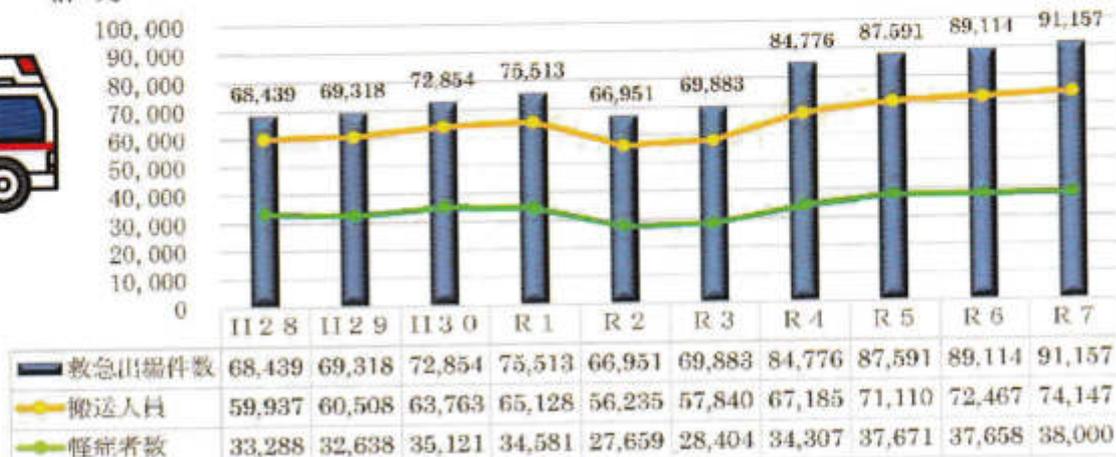
イ 原因別の搬送人員は、急病が53,272人(71.8%)、一般負傷が11,846人(16.0%)、交通事故が3,197人(4.3%)となっており、この3種の原因で全体の92.1%を占めています。

なお、搬送人員のうち入院を必要としない「軽症者」は、38,000人で全体の51.2%となっています。

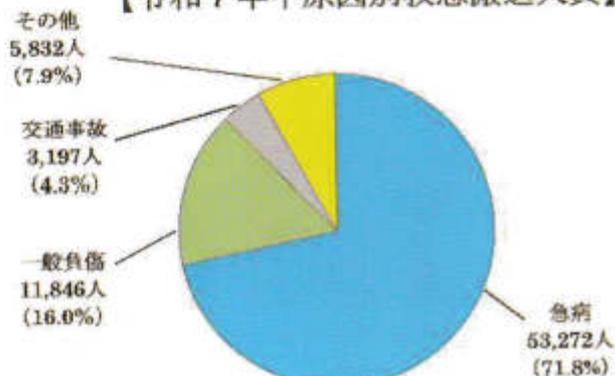


(件・人)

【過去10年間の救急出場件数・搬送人員等】



【令和7年中原因別救急搬送人員】



救急車の適正  
利用を！！



### (3) 令和7年中の特徴

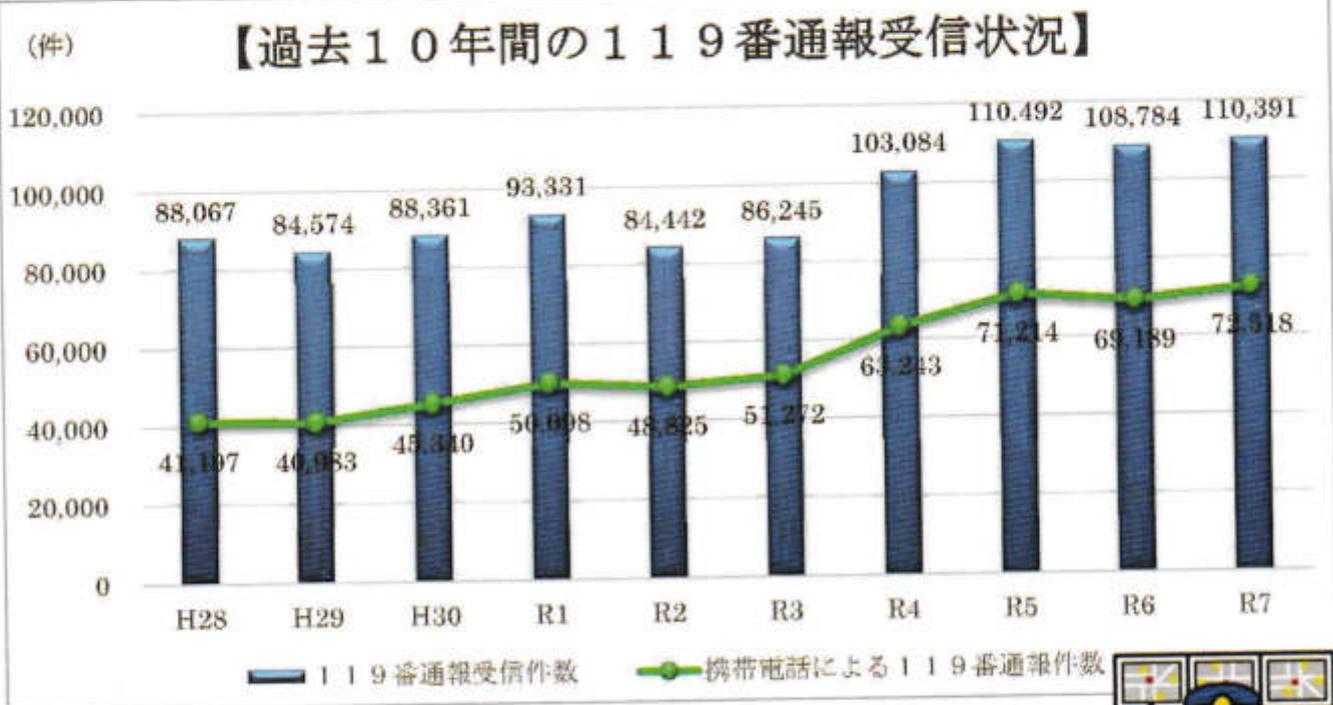
救急出場件数は、5年連続で増加しており、搬送人員を年齢別割合で見ると、65歳以上の高齢者は56.0%で、前年より1.7ポイント増加しました。その他、成人（18歳から64歳）は35.0%で、前年より1.7ポイント増加、少年（7歳から18歳未満）は3.3%で前年より0.1ポイント増加、乳幼児（7歳未満）は5.6%で、前年より0.2ポイント減少しました。

### (4) 年末年始の餅による事故

年末年始（令和7年12月29日から令和8年1月3日まで）に餅を喉に詰まらせて救急搬送された件数は0件で、前年同時期は3件となっています。

## 3 119番通報受信状況

- ・令和7年中の119番通報受信件数は、110,391件で、前年と比べて1,607件（1.5%）増加し、1日平均の受信件数は、約302.4件（4分46秒に1件）でした。
- ・また、携帯電話による119番通報は、72,518件（全体の65.7%）で、前年と比べて3,329件増加しました。



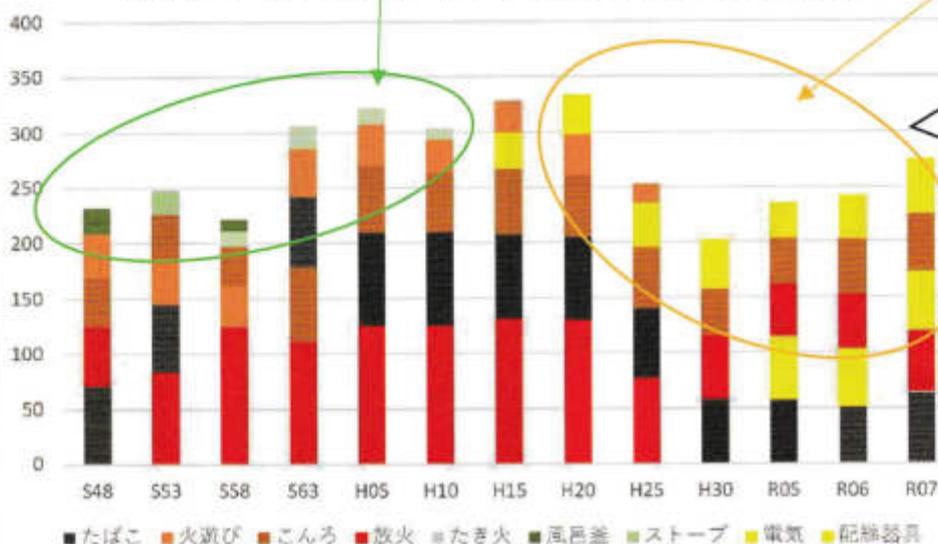
## 4 火災の原因及び件数の推移について

- ・昭和48年頃から放火の件数は徐々に増えており、昭和51年から令和2年までは放火が1位、2位を独走していました。
- ・昭和から平成初期は、時代を反映してストーブや風呂釜などの裸火を使用する機器を原因とした火災が多い傾向にありました。
- ・平成中期からは裸火に代わるエネルギーである電気に関係した火災が増加しており、令和5年には電気機器と配線器具を合算すると火災原因の第1位になります。
- ・しかし、こんろやたばこなどは常に火災原因の上位であり、電気も使用方法や管理に起因するものが多いので、火災を減らすためには皆様一人ひとりが火や電気を取り扱う際の注意を怠らないことが重要となるでしょう。

昭和48年から令和7年までの火災原因及び件数の推移

順位	項目	S48	S53	S58	S63	H05	H10	H15	H20	H25	H30	R05	R06	R07
1	原因	たばこ	放火	放火	放火	放火	放火	放火	放火	放火	たばこ	たばこ	電気機器	たばこ
	件数	71	83	124	110	125	125	131	130	77	59	57	53	64
2	原因	放火	たばこ	火遊び	こんろ	たばこ	たばこ	たばこ	たばこ	たばこ	放火	電気機器	たばこ	放火
	件数	53	62	37	69	85	85	76	75	63	55	57	50	55
3	原因	こんろ	火遊び	こんろ	たばこ	こんろ	こんろ	こんろ	こんろ	こんろ	こんろ	放火	こんろ	電気機器
	件数	45	41	35	63	60	53	60	56	55	44	47	50	54
4	原因	火遊び	こんろ	ストーブ	火遊び	火遊び	火遊び	電気	火遊び	電気	配線器具	こんろ	放火	こんろ
	件数	39	40	15	43	38	30	32	37	40	22	42	49	52
5	原因	風呂かまど	ストーブ	風呂かまど	ストーブ	ストーブ	ストーブ	火遊び	電気	火遊び	電気機器	配線器具	配線器具	配線器具
	件数	24	22	10	22	15	11	30	36	18	21	32	39	50

昭和48年から令和7年までの火災原因と件数の推移



時代の移り変わりとともに、裸火による火災が減少し、電気火災が増加してきました。



**調理中は  
離れない!**

## 5 消防局からのお願い

- (1) **たばこ**は「灰皿には水を張り、確実に消火する。」「ポイ捨てはしない。」等、日頃から喫煙マナーを守るようにお願いします。**こんろ**は「調理中に目を離さない。」等の基本的な対策をお願いします。
- (2) **放火**は「家の周りは整理整頓し燃えやすいものを置かない。」「ごみは決められた日の朝に出す。」等、放火されない環境づくりに御協力をお願いします。
- (3) **電気火災**（電気機器、配線器具、電灯・電話等の配線、電気装置に起因する火災）が、近年、急増しています。「電化製品は、取扱説明書どおりに使用する。」「モバイルバッテリー等のリチウムイオン電池は圧力・衝撃を与えず、変形しているなどの異常があれば使用を中止する。」「電気コードが傷んでいる場合や、プラグが変形している場合は使用を控える。」「プラグはしっかりと差し込んだ状態で使用する。」等の基本的な対策をお願いします。
- (4) **火災によって命を落とす人の約8割が65歳以上の高齢者**で、そのほとんどが逃げ遅れによるものです。自分や家族を守るために、身の回りの整理整頓、火災の発見、火災時の早期避難について、離れて暮らす家族とも話し合い、火災への備えをお願いします。
- (5) **住宅火災による被害の軽減**に向けて、「住宅用火災警報器」の設置及び維持管理をお願いします。いざというときに正しく作動するよう、定期的に作動確認を行うことを習慣づけてください。
- (6) **救急車の適時・適切な利用**に御協力ください。  
急な病気やケガをしたときに、「救急車を呼んだ方がいいのか」、「今すぐ病院に行った方がいいのか」などで迷った際は、電話でアドバイスを受けることができる、「**かながわ救急相談センター（#7119）**」を御利用ください。  
川崎市ホームページでは、「**川崎市救急受診ガイド**」を掲載しているほか、医療機関への交通手段がない場合に、消防局が認定した民間救急車等の事業者情報を「**サポート救急**」として案内しておりますので、こちらも御活用していただき、救急車の適時・適切な利用に御協力をお願いします。

# 「電気火災」が多発しています！

## 電気火災は近年、増加傾向

電気火災とは、その名のとおり、電気機器などが原因で発生する火災ですが、近年、増加傾向となっています。

川崎市内における過去10年間の電気火災件数



## 主な電気火災の発火源と防ぐポイント

川崎市HPの「電気火災が多発しています」も御覧ください。⇒  
<https://www.city.kawasaki.jp/840/page/0000152094.html>



### ■ 1位 電池 (95件)

- ・リチウムイオンバッテリーに衝撃が加わることで火災になることがあるので、日頃から取扱いに気をつける。
- ・電池を使用する製品は、取扱説明書どおりに使用し、純正品のバッテリーを使用する。
- ・異常がある場合は使用をやめて、メーカーや販売店に相談する。



### ■ 2位 プラグ (93件)

- ・定期的にプラグを抜いて、付着したほこりなどを掃除する。
- ・プラグはしっかりと差し込んだ状態で使用する。
- ・プラグに変形がある場合は使用を控える。



### ■ 3位 電気コード (92件)

- ・電気コードを束ねたり、重いものの下敷きになっている状態で使用しない。
- ・電気コードが傷んでいる場合は使用を控える。

